

# なんもく・山村ぐらし通信

2024(令和6)年2月発行  
通巻第41号(冬季号)

発行責任者・発行元：  
南牧山村ぐらし支援協議会  
問合せ：南牧村役場  
村づくり・雇用推進課  
協議会事務局  
電話：0274-87-2011(代)  
紙面編集：松林・高柳



協議会QRコード

協議会HP  
<https://nanmoku.org/>  
活動内容や各種情報を  
随時更新中！

【空き家問合せ件数】  
R5年7~12月(前环比)  
電話：11件(-9)  
7月 0件  
8月 1件  
9月 1件  
10月 0件  
11月 2件  
12月 7件

メール等：27件(+14)  
7月 2件  
8月 6件  
9月 6件  
10月 7件  
11月 5件  
12月 1件

現地見学：27件(+13)  
7月 3件  
8月 4件  
9月 4件  
10月 3件  
11月 10件  
12月 3件

【協議会ウェブサイト  
訪問・閲覧数】  
7/1-12/31

閲覧数 約32,000(↑)  
訪問数 8,109(↑)  
訪問者数 5,433(↑)  
平均ページ閲覧数  
1訪問3ページ(→)

## オールぐんま移住フェアに初参加

村の自然景観や古民家の写真をボードに貼り、南牧をアピール

昨年11月19日(日)に東京交通会館で開催された、オールぐんま移住フェアに行ってきました。私は東京開催の相談会には初めての参加で、右も左も分からずでしたが、発見もあれば反省点もありましたので報告いたします。

今回の会場は、群馬の各市町村の移住相談ブース、工作系ワークショップ、今や群馬を代表するタレントに上り詰めたJOYさんが参加する特別セミナーがあ

ったりと、賑やかでした。各市町村の相談ブースは、出展する位置や大きさが決まっています。その中で写真や映像を見せたりお菓子配ったりと、それぞれ工夫してブースを盛り上げていて、移住に対する市町村の熱量が分かりました。

南牧村は、会場中央の人の往来の多いエリアで出展しました。相談ブースは、村の写真、自然の景観、古民家の様子等いろいろの壁のボードに貼り、机にパ

ンフレット各種を並べて出展しました。そして出展ブースでの相談状況ですが、あまり多くの方と相談できませんでした！相談数が多いればいいのですが、もっと来場者の側からどんどん来るものなのかなと、勝手に想像しておりました。実際にしっかり話

きたのは数組で、古民家に興味があって改装してみた、敷地内で薪を使って調理がしたいといった相談を受けました。相談会ではポイントで南牧目当てで来るのではなく、大まかに田舎暮らしに興味があるという方々が多いんですね。

そんな相談会を通して、これが大切だと感じたことがあります。まず当然ですが、出展ブースの雰囲気です。ブースを賑やかにして

目にも留まるようにすることも必要ですが、立ち寄りやすい雰囲気づくりが必要ではないかと感じました。相談を待っているだけではない、ちょっとした声かけや呼び込み方、机や椅子の配置といった環境を工夫すれば、よりよくなると感じました。次に、いかに南牧村に興味を持ってもらい、知りたくなってもらうかという点です。いろいろ伝えるには限りがあると思います。大野(寄稿)



相談会に参加した協議会メンバー。左から大野さん、大井川さん、岩崎さん

ります。こちらから一方的に話して南牧村を知ってもらおうではなく、知りたくなるような話の進め方ができたらいいなと思います。そうすれば、南牧村を自分で見たい、知りたい」となってもらえるのではと感じました。

感想としては、相談者にはいろいろと自己紹介をする中で、由村ぐらし支援協議会に名のりやすい通称みたいなものがあるればといいなと感じました。例えば なんもくぐらし応援隊のような呼び名があると自己紹介もしやすいですし、覚えられやすいのかなあと感じました。初参加の相談会で反省点もありましたが、自分なりに良い経験になった一日でした。またこのようなイベントに参加する機会があれば、今回の経験を活かしたいと思

は、相談者にはいろいろと自己紹介をする中で、由村ぐらし支援協議会に名のりやすい通称みたいなものがあるればといいなと感じました。例えば なんもくぐらし応援隊のような呼び名があると自己紹介もしやすいですし、覚えられやすいのかなあと感じました。初参加の相談会で反省点もありましたが、自分なりに良い経験になった一日でした。またこのようなイベントに参加する機会があれば、今回の経験を活かしたいと思

## NEW FACE 協議会メンバー紹介



昨年、地域おこし協力隊に着任した朝倉早也輝(あさくらはやて)です。なんもくふれあいテレビで撮影などの仕事をしています。

南牧村の埋もれた遺構

南牧村は、会場中央の人の往来の多いエリアで出展しました。相談ブースは、村の写真、自然の景観、古民家の様子等いろいろの壁のボードに貼り、机にパ

ります。こちらから一方的に話して南牧村を知ってもらおうではなく、知りたくなるような話の進め方ができたらいいなと思います。そうすれば、南牧村を自分で見たい、知りたい」となってもらえるのではと感じました。

感想としては、相談者にはいろいろと自己紹介をする中で、由村ぐらし支援協議会に名のりやすい通称みたいなものがあるればといいなと感じました。例えば なんもくぐらし応援隊のような呼び名があると自己紹介もしやすいですし、覚えられやすいのかなあと感じました。初参加の相談会で反省点もありましたが、自分なりに良い経験になった一日でした。またこのようなイベントに参加する機会があれば、今回の経験を活かしたいと思

は、相談者にはいろいろと自己紹介をする中で、由村ぐらし支援協議会に名のりやすい通称みたいなものがあるればといいなと感じました。例えば なんもくぐらし応援隊のような呼び名があると自己紹介もしやすいですし、覚えられやすいのかなあと感じました。初参加の相談会で反省点もありましたが、自分なりに良い経験になった一日でした。またこのようなイベントに参加する機会があれば、今回の経験を活かしたいと思

## 移住者交流会のご案内

地域おこし協力隊の活動報告会も同時開催

☆日時 令和6年2月23日(祝金) 13:30~18:00  
☆場所 南牧村活性化センター  
☆内容  
<第1部>  
講演 他地域の事例から学ぶ地域おこし協力隊  
講師 NPO法人ぐんま地域おこし協力隊ネットワーク代表 岩崎大輔  
<第2部>  
南牧村協力隊活動報告会  
報告者 宮崎大輔、宮崎テオドーラ、朝倉早也輝  
<第3部> 移住者交流会(参加費:1,000円)  
※詳細は別添チラシをご確認ください。

平成年度から開催してきました。コロナ禍により令和元年度を最後に中断していましたが、今年度は4年ぶりに開催できる

山村ぐらし支援協議会が空き家の活用などの活動を始めて13年が経ちます。この間に多くの方々が南牧への移住や2拠点居住をされています。そんな中で移住された方は、今までの生活との違いや南牧独自の慣習などに戸惑うことが多いと思います。また住民の方々も移住者と接する機会も少なく、なんとなく不安を感じている方もいるのではないのでしょうか。

協議会では、そんなお互いの不安を解消する場として、移住者交流会を

運びとなりました。また今回は、地域おこし協力隊の活動報告会も同時開催します。協力隊は、都市部の若者等が過疎地域に移住する際に最長3年間、市町村で雇用できる国の制度です。南牧村では、これまで10名の隊員を受け入れてきました。現在は3名が活動中で、うち2名は今年度末に卒業を控えています。卒業後の自立・定住を目指した活動が3名の隊員から発表されます。皆さまのご参加をお待ちしております。事務局)

# ぶらりなんもく

## 〜磐戸鉦山跡〜

南牧村を知る前から認知していた「南牧の鉦山」。廃墟・廃鉦山マニアの中ではとて有名な磐戸鉦山跡だが、南牧の人々はこの名前を知らなかったのに驚いた。遠くから眺めると茶色の建築物が山肌を覆うようにそびえ立つ。有恒鉦業跡地」と呼ばれる巨大な遺構群は今でも南牧の山奥で眠っている。かつてここでは大規模な採掘が行われていたという。

テレビ局の仕事として初めて掘り、多くの人間が働く場所があったのだ。目の前にあ

る錆びたベルトコンベアや鉄柵で封鎖された巨大な坑口が当時毎日のように稼働し、鉦夫達が出入りしていた事を思い浮かべながら手を当てて目をつぶると、かすかに「歴史の音」が聞こえてくる気がする。

この南牧にはあまり知られていない鉦山が沢山ある。それらをその辺にある穴」とするか、歴史的産業遺産」とするか。我々の手に委ねられている。

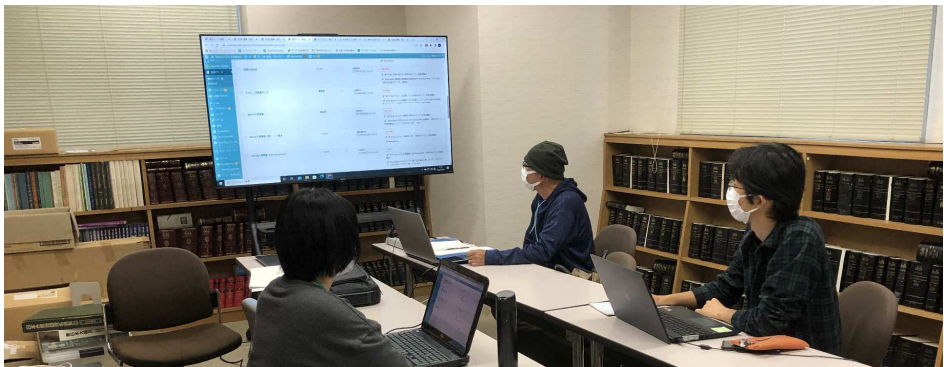
朝倉寄稿

ホッパー跡で積み込みを行っていたのかな



# 古民家バンクへ登録しませんか？

空き家バンク登録作業の会議の様子



協議会では、古民家バンクに登録して下さる物件を大・大・大募集！家は住まないとどんどん傷みが進み、景観の悪化や老朽化・災害による倒壊、放火などの火災、不審者による治安悪化などの恐れがあります。協議会が運営する古民家バンクには、現在までに70件ほどの古民家が登録され、3分の2ほどが契約に至っています。この機会にぜひ、ご近所やご親戚の空き家のご紹介をお願いします！

そんなこと言っちゃって「ボロボロだから人に貸せない」「荷物がたくさん残っている」「知らない人に貸すには抵抗がある」そんなお声を聴きますが：

◎自分でDIYや改築を希望する人も多く、躯体がしっかりしていれば大丈夫です。

◎荷物はそのままで大丈夫です。1階だけ片付け、残りの荷物は2階にあげておくなどの対応も可能です。

◎役場担当者や移住コーディネーターが相談者を見極め、物件をご案内します。契約を焦らせたり急がせることはありません。最終的に所有者の方に希望者の情報を提供し、交渉・契約の可否を決めて頂きます。

※古民家バンク登録後も、定期的な物件の手入れは所有者ご自身にお願いしております。

※賃貸・売買契約は所有者・希望者間で結んで頂きます。協議会は両者のご紹介のみ行います。手数料は掛かりません。

ぜひお気軽にご相談ください！

お問合せ先 87-2011

# 大切な人生 一度の学び

俺なんかときゃー 50代の塩沢出身者は俺の学校で1000人から通っていたんだからスゲ〜やなあ」いつも聞いて驚いてた会話。私が南牧村へ嫁いではや半世紀。人口減少問題は付物。台風被害や大雪などメディアに扱われるたびに少子高齢化日本一と言われる現実。でも住民は、皆元気で明るい。

なんもく学園」の建設がきっかけで色々調べてみると、南牧村はずら知らずのうち保育園から小中一貫校が出来ていて、尾沢出身のおばあちゃん(94)の話に、わしらんとときや、女だけで62人いたんだもん今も忘れられないように」と語る。磐戸・月形・尾沢各地域の本校をはじめ、分校も檜沢、大塩沢、底瀬、観能と4校、昔をもの語る着物の運動会の写真は賑やかで凄い。

い。年々減少していく成人式のたびに切ない気持ちで沸いてしまう。中でも千原ドームで木育イベントの写真は忘れられない思い出。

スロライフ&スロフードの学び出逢い、今でも移住者や若者世代と交流して、この山村ぐらし協議会」に企画して、人生で常に学び多く、田舎ぐらしの体験はきっと忘れられない思い出になると信じています。人生訓 大生すべて前向き、老いて尚前進。」ホントにその通りと想い知らされる昨今、新しい学校に期待したいと。

神戸寄稿

## 回尾沢小



尾沢小学校の歴史



尾沢小学校の歴史



## 木育イベント